

祝 合村 100周年 ・ 町制施行5周年

横越町ものしりクイズ — 25問

- Q1 慶長15年(1610)から77年間、新発田藩の支藩が阿賀野川ほとりにありました。藩の名前は？
- Q2 明治8年、阿賀野川に架けられた横越村の橋の名前は？
- Q3 明治34年、5か村が合併して横越村ができました。この5つの村のすべての名前は？
- Q4 大正6年、大規模な河川改修が始まりました。この河川の名前は？
- Q5 昭和20年、焼山地区に爆撃機が墜落しました。どこの国の爆撃機か？
- Q6 昭和20年、県下一の豪農の館が、博物館に生まれ変わりました。現在のその施設の名前は？
- Q7 横越尋常・高等小学校校長を務め、教育功労者として昭和28年に名誉村民となった人は？
- Q8 第3・5・7・10代横越村長を務め、村の発展に尽力し、昭和28年に名誉村民となった人は？
- Q9 第11・14代横越村長を務め、村の発展に尽力し、昭和42年に名誉村民となった人は？
- Q10 横越・沢海・木津・小杉の4つの小学校が統合され、新校舎が開校しました。開校した年はいつ？
- Q11 昭和52年、小学校の近くに新潟市と共同設置した施設は？
- Q12 横越町と姉妹村(町)となっている茨城県の村の名前は？
- Q13 明治4年に生まれ、東京帝国大学の教授となり、我が国社会学の開祖といわれ、衆議院・貴族院議員となった横越村の偉人は？
- Q14 明治10年に生まれ、新潟新聞主筆を務め、民俗学の研究に大きな業績を残した横越村の偉人は？
- Q15 財源窮乏と水害の被害によって新しい神楽を購入できず、ワラなどの農作物で作ったのが始まりとされる神楽の名前は？
- Q16 横雲橋がなくなったことにより、沢海～焼山間を往復した乗り物は？
- Q17 二本木・木津地域に広がり、この地域を代表する秋の味覚の果物は？
- Q18 平成2年、木津地区に完成し、町民の大きな雇用の場となっている場所の名前は？
- Q19 町の人口が国勢調査で1万人を超えたのは平成何年か？
- Q20 横越町のメインストリートの名前は？
- Q21 横越町の花といえば何？
- Q22 毎年5月に開催されるイベントの名前に使われ、藤山・駒込地域の住民に育まれてきた植物の名前は？
- Q23 総合体育館が完成したのは平成何年か？
- Q24 現在、阿賀野川にかかる町内の3つの橋の名前は？
- Q25 横越村から横越町へ変わったのは平成何年か？

みなさんは、いくつ分かりましたか？
これらの答えは、広報今月号13ページに掲載しています。



合村百周年・町制施行五周年

にあたって

横越町長 浅見 良一



ところで、当町は県都・新潟市に隣接し、産業・経済はもとより、教育・文化・福祉等々多くの恩恵を受けながら発展してきた町であります。

日本海側最大の都市・新潟市は、環日本海のみならず、世界に開かれた玄関口、世界各国に向けた情報の発信基地として、国際的物流機能、研究開発機能、国際交流機能などを備えた中枢都市としての重要な使命を担い、さらなる飛躍・発展が期待されております。

夢と希望に満ちた二十一世紀の幕が開きました。
今年、我が町が明治三十四年十一月一日に「横越村」「沢海村」「木津村」「二本木村」「小杉村」の五か村が合村して百周年、また、平成八年に「村」から「町」へ町制を施行して五周年を迎える記念すべき年であり、今年十一月一日、合村百周年と町制施行五周年を祝う記念事業を開催することとなりました。
今、百年前を振り返る時、当時の人々が村の将来の発展と村民の幸せを願いつつ、勇気ある英断により合併を実現し、幾多の変遷を経る中で、先人たちの英知と努力はもろろんのこと、その時々における住民の皆さまのたゆまざるご支援、ご協力のもと、今日の横越町があることを忘れてはなりません。

一方、今日の日本は、未だかつて経験したことのない政策課題が山積しております。少子高齢化、金融・経済などのビッグバン、国際化の進展、IT革命で代表される情報の波、さらには、人々は物の豊かさから心の豊かさやゆとりに大きな価値観を見いだすようになってきており、反面、日本経済の現状は厳しく、産業の空洞化や経済構造に大きな変化が生じ、国内景気も一段と低迷の一途をたどり、国も地方も、その財政事情は大変厳しい事態となっております。従来どおりの政策を反省なく継続

するようなことは許されない状況になっております。今まさに、地方分権の真価が問われる時代であり、地方分権社会もすでに実行の段階に入っております。

このような厳しい状況の中、今後、市町村によっては単独で現状を維持していくことは難しくなる状況が訪れることが十分予測されますと同時に、市町村合併について真剣に議論をすべきであると思っております。

そして、新潟市を中心とした周辺市町村が「小異を捨て大同につく」気概で、将来的な発展に向けた独自性を持った戦略を構築し、農業、加工産業、環境、エネルギー対策などにおいて、地域固有の資源の活用、基幹産業の育成、魅力ある就業社会の創造、快適な生活環境の保全等、産業と自然の調和のとれたまちづくりを一層進めていかなければなりません。

それには、市町村合併を促進し、世界に羽ばたく政令指定都市の実現を図ることが市町村の生き残り、発展する条件になると考えております。

現在、横越町は自然と暮らしが調和した緑豊かな田園都市としてますます躍進を続けており、合村百周年後の今また、交

お知らせ

すでに各家庭にチラシを配布しましたとおり、11月1日に記念コンサートと記念講演会、歴史パネル展を開催しました。

11月3・4日には、中央公民館で行われる文化祭においてもパネル展を開催し、また、町ホームページの歴史コーナーも充実させましたので、みなさん、どうぞご覧ください。

通基盤や情報通信手段の発達、経済活動の広域化に伴い、通勤・通学やショッピング、医療など住民の日常生活圏は、市町村の区域を越えてますます拡大しており、行政区域の見直し、市町村合併が盛んに議論されています。当町でも、合併調査委員会の答申を受け、新潟市など近隣市町村との市町村合併の協議を始めたところであります。

今後、皆さま方と更なる英知を結集し、「緑豊かないきいきとした町よこし」の創造のため、魅力あるまちづくりを一層推進して参りたいと思っております。